



令和5年度

## 茨城県優良図書紹介【中学生向け】



『ぼくたちはまだ出逢っていない』 八束澄子（ポプラ社）

見た目は元気そうに見えても、心にはいろんなことを抱えて悩みながら日々過ごしている登場人物たちが、古くから伝わる伝統文化「金継ぎ」に触れることで、自分の抱える人生の課題を乗り越えるきっかけを掴み、成長していく。勇気をもらえる作品。



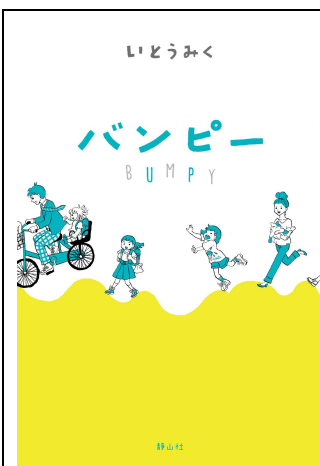
『あした、弁当を作る。』 ひこ・田中（講談社）

主人公は中学1年生で、思春期を迎えた少年である。いままで何とも思っていなかった母親との関係に違和感を持ったり、父親のものの考え方に疑問を持ったりする。思春期の複雑な心の内を抱えながら、前に進んでいこうとする主人公にエールを送りたくなる作品である。



『ソノリティ はじまりのうた』 佐藤いつ子(KADOKAWA)

中学1年生、合唱コンクールに向けて成長していく姿を描いた青春物語。合唱コンクールを舞台に中学生が抱えるさまざまな葛藤やコンプレックス、友情や淡い恋心が合唱曲「ソノリティ」にのせ描かれる。



## 『バンピー』 いとうみく (静山社)

母が亡くなり、父は失踪。高校生の成は、小学生の三人の妹の親代わりとして家庭を支えている。そこに成の妹を名乗る女子高校生、蛍が突然現れる。複雑な大人の間人間関係に翻弄されながらもたくましく成長していく姿からポジティブに前向きに生きていくことの大切さを感じる。



## 『手で見るぼくの世界は』 榎崎茜 (くもん出版)

視覚支援学校で学ぶ子供たちが、白杖をもって街に出る不安や晴眼者への不信感などを親や先生、友達と支え励まし合って乗り越え、人としても成長していく物語。

視覚障害のことについて考えるきっかけになる、多感な中学生にぜひ読んで欲しい。



## 『オタクを武器に生きていく』 吉田尚記 (河出書房新社)

テーマになっている4つの仮説『そんなことどうでもいいでしょ』は無視したほうがいい?』『この道一筋』じゃないほうがいい』『労働=つらいことのガマン代』ではない』『将来、何になりたい』はかんがえないほうがいい』を対談の中で立証していく形で進んでいく。将来に不安を感じている子供たちに勇気を与えてくれる言葉であふれている。



## 『給食アンサンブル2』

如月かずさ 作、五十嵐大介 絵 (光村図書)

中学校の生活に慣れ、高校入試までにはあと1年という中学2年生という時期は、人間関係や日常生活の中にいろいろな疑問を持つ、人間として成長するうえで大切な時期である。登場人物の心の動きに共感しながら読むことができる一冊。



## 『チャンス はてしない戦争をのがれて』

ユリ・シュルヴィッツ 著、原田勝 訳 (小学館)

作者は戦争や迫害など不条理な出来事に遭遇しながらも、心の支えである絵を描くこと、そして「偶然(チャンス)」の積み重なりで生き延びてきた。戦争について考えるきっかけになる一冊。



## 『目で見ることばで話をさせて』

アン・クレア・レゾット 著、横山和江 訳 (岩波書店)

主人公のメアリーが暮らすマーサズ・ヴィンヤード島では誰もが手話を使いこなし、いきいきと暮らしている。ある日傲慢な科学者に誘拐され、ことばと自由を奪われてしまうメアリー。差別や偏見に負けない、主人公の前向きな生き方に力をもらえる。

桃太郎は  
嫁探しに  
行ったのか？

倉持よつば



新日本出版社

## 『桃太郎は嫁探しに行ったのか？』

倉持よつば (新日本出版社)

作者は現在中学2年生の14歳。小学5年生のときに「桃太郎は盗人なのか？～『桃太郎』から考える鬼の正体～」をテーマにした調べ学習をし、文部科学大臣賞を受賞している。各地域に伝わる桃太郎伝説資料を読み苦労を重ねてまとめている。調べ学習の参考にも。